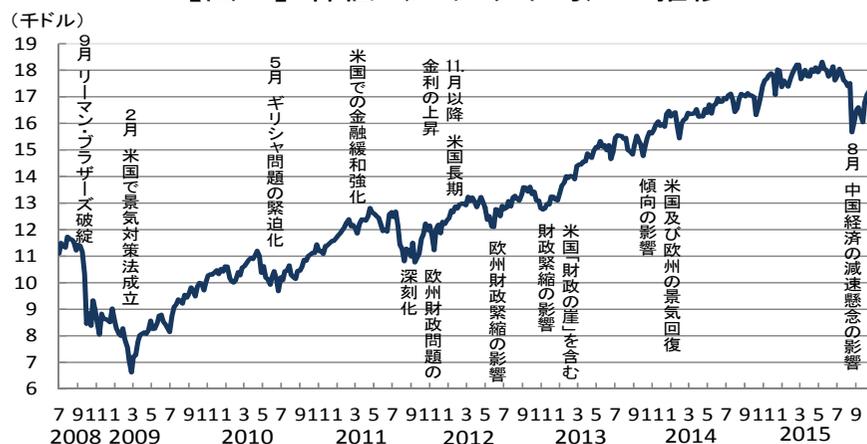


Ⅱ-2 穀物市場を取り巻く各種経済動向

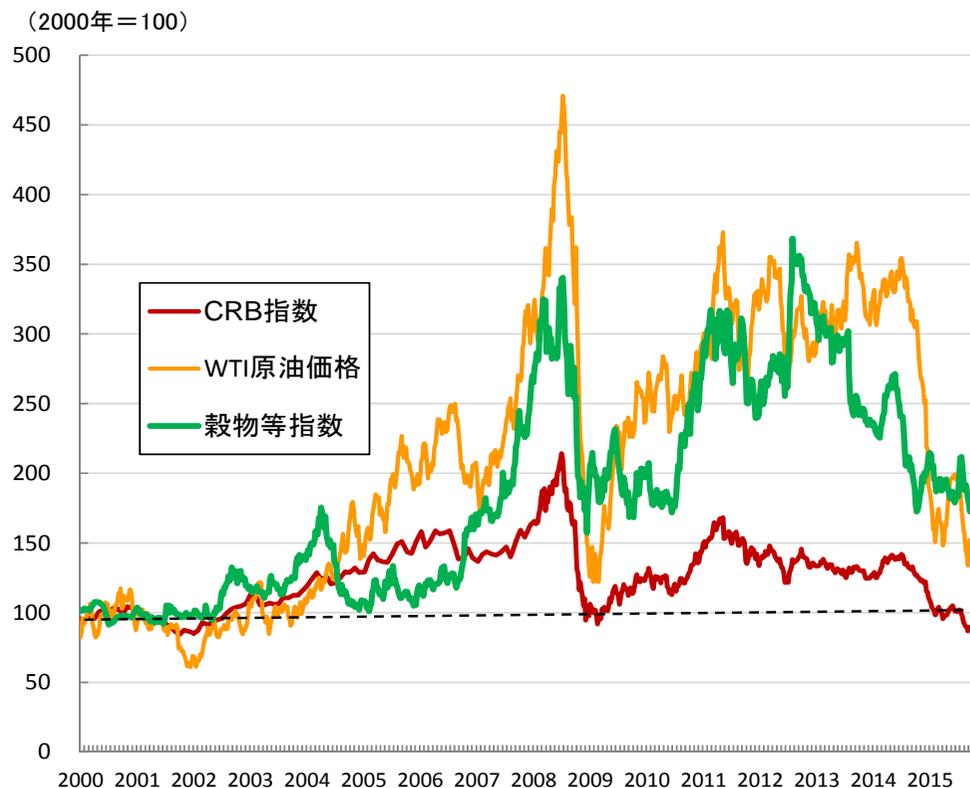
- 2007年8月以降、サブプライムローン問題に関連した欧米の金融市場の混乱が続き、2008年9月の米国大手投資銀行の破綻を契機として「世界金融危機」が発生。投機資金の急激な流出、世界的な不況による消費全体の減退懸念などにより、商品価格が大幅に下落。
- その後、2009年2月頃に底を打った後、商品価格は景気回復への期待感等から上昇、2011年半ば以降、世界経済の減速に伴い横ばいで推移していたものの、2014年に原油価格の影響等により下落。原油価格は2009年から上昇し高水準で推移していたが、2014年7月以降に中国等の景気減速、シェールオイルの堅調な生産、OPECの生産目標維持による需給の緩和で下落。株価（NYダウ）は、米国の景気回復等から上昇傾向であったが、2015年8月に中国等の景気減速懸念の影響から下落。

【図1】 株価（NYダウ平均）の推移



出典：ロイターES時事 注：NYダウ工業株30種平均株価の毎週火曜日の終値である。

【図2】 商品指数(CRB指数)、原油価格等の推移



出典：ロイター/ジェフリーズ、ロイターES時事、U.S. Energy Information Administration

注：ロイター/ジェフリーズCRB指数は、毎週金曜日の指数。WTI原油価格は週平均価格。穀物等指数は、シカゴ商品取引所3商品価格（小麦、とうもろこし、大豆）を平均して指数化。

【図3】 ドル指数とCRB指数の推移



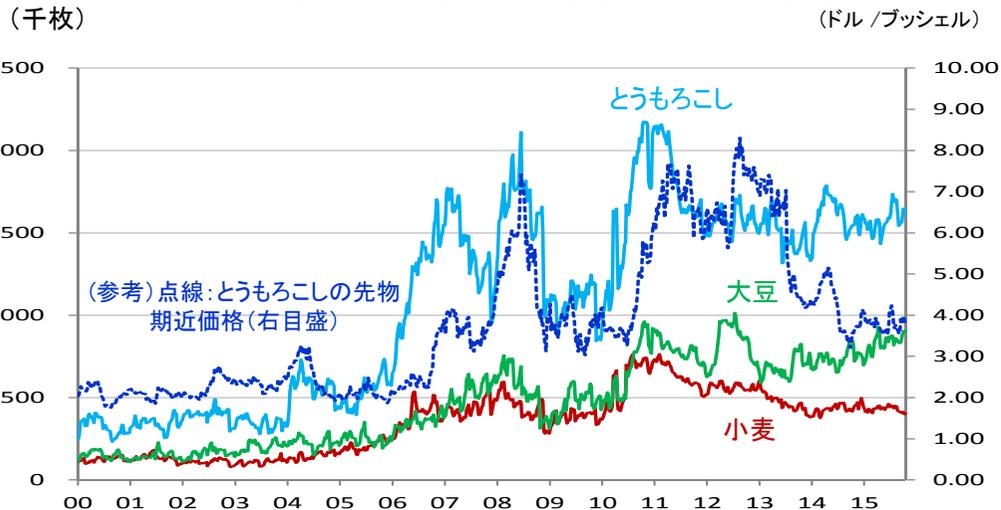
出典：ICE「US Dollar Index®」
ロイター/ジェフリーズ

注：ICE（インターコンチネンタル取引所）ドルインデックス先物の毎週金曜日の終値である。CRB指数は、図2注参照。

Ⅱ-2(参考) 穀物市場における投機家による先物取引の推移

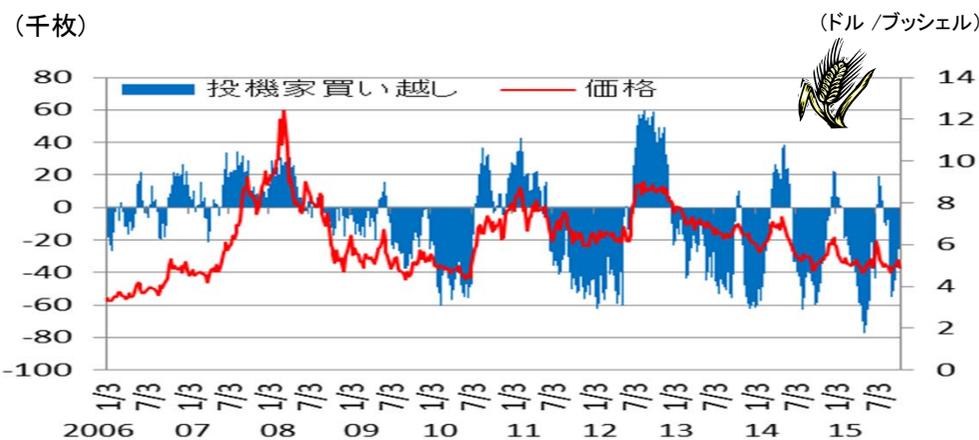
- シカゴ商品取引所(CBOT)における穀物等先物の投機家の取引総枚数は、近年おおむね横ばいで推移。
- 現在のところ、穀物価格は小幅な動きで推移。投機家による買越枚数は、前月末と比べ小麦・とうもろこしは減少、大豆は増加。

【図1】 投機家の穀物等の取引総枚数(注)の推移(CBOT)



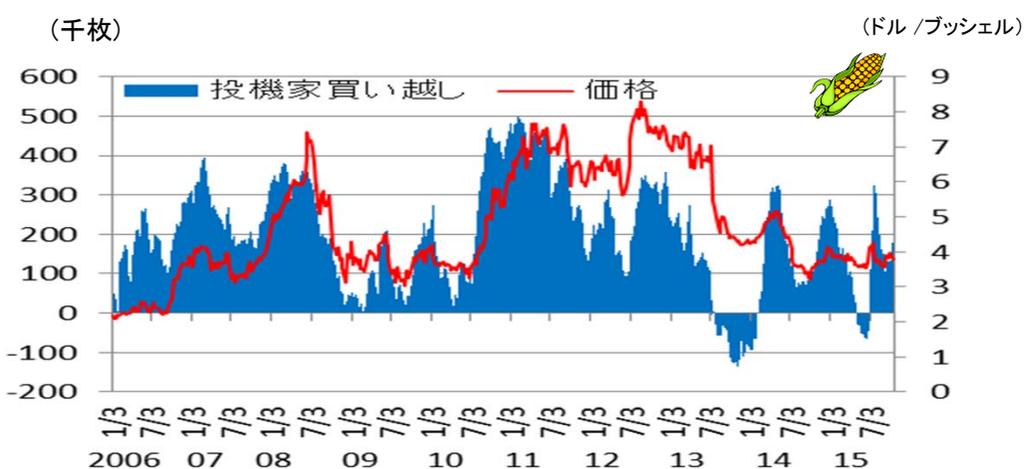
資料：US.CFTC「Futures-and-Options Combined Reports」により作成
注：取引総枚数は、投資家(NonComm)による先物の買い枚数、売り枚数の合計である。

【図2】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(小麦)



資料：US.CFTC「Futures Only Reports」、IGC「Futures Prices」により2006年1月第3週～2015年10月第3週までの毎週火曜日の数値で作成。図3及び図4も同じ。

【図3】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(とうもろこし)



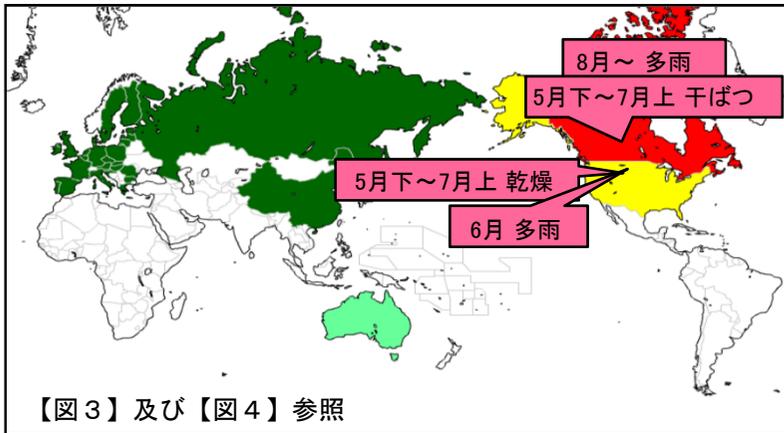
【図4】 投機家の買越枚数と先物期近価格の推移(大豆)



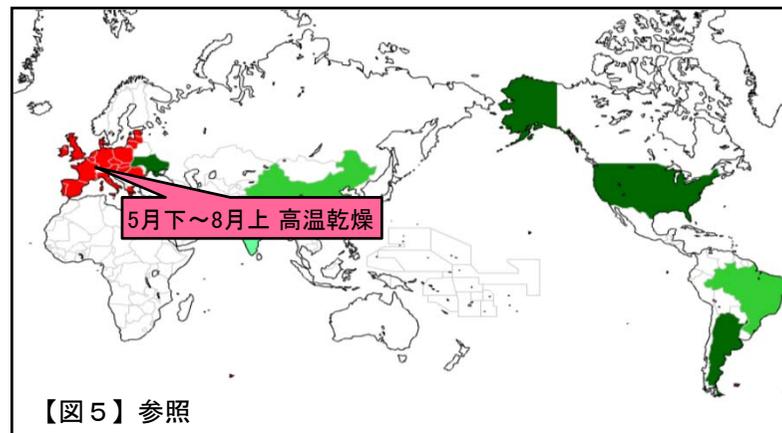
Ⅱ-3-(1) 小麦・とうもろこしの作柄見通しと気象の影響

2015/16年度（2015年10月時点）の小麦及びとうもろこしの主要生産国における作柄見通しについて、【小麦】は、EU、中国及びロシアは良、豪州は平年並み、米国はやや不良、カナダは著しい不良の見込み。【とうもろこし】は、米国、アルゼンチン及びウクライナは良、中国及びブラジルはやや良、インドは平年並み、EUは著しい不良の見込み。

【図1】小麦の作柄



【図2】とうもろこしの作柄



単収の過去5年平均との対比

- 106以上 (良)
- 102以上～106未満 (やや良)
- 99以上～102未満 (平年並み)
- 95以上～99未満 (やや不良)
- 91以上～95未満 (不良)
- 91未満 (著しい不良)

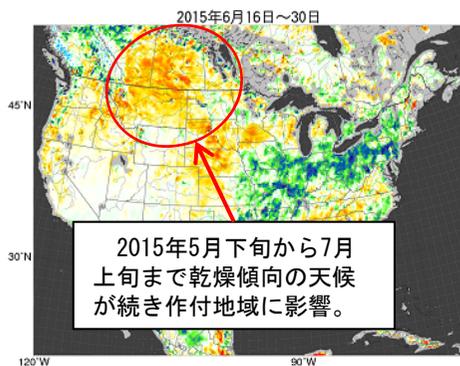
【図3】及び【図4】参照

【図5】参照

資料：米国農務省「PS & D」（2015.10）を基に農林水産省にて作成

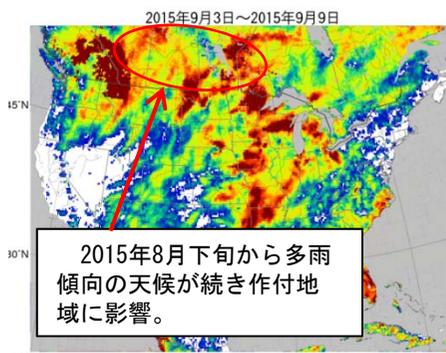
注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6～7カ国を対象（2015年5月時点）。作柄概況は過去5年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収（見込み）の比較により区分。なお、EU（欧州連合）の加盟国については、EUとして一括区分。

【図3】北米の乾燥状況



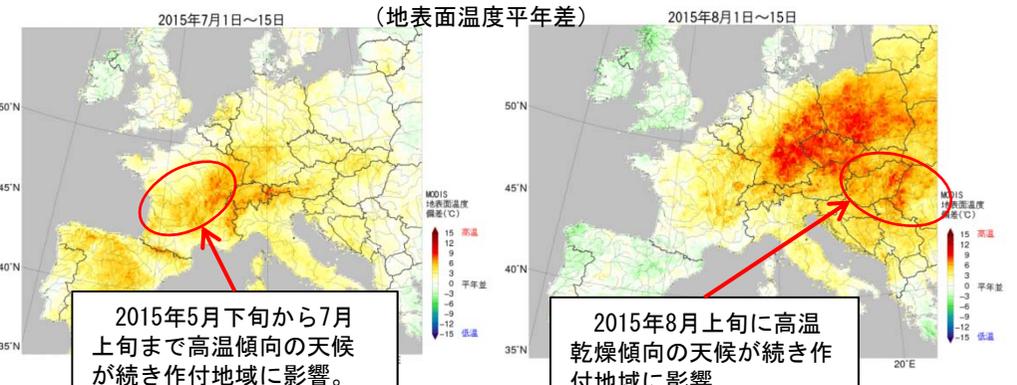
注：黄色～赤になるほど平年値（2002年7月～2011年6月）と比べ乾燥していることを表す。

【図4】カナダの降雨状況



注：赤色になるほど週間積算雨量（実績値）が多いことを表す。

【図5】EU地域における高温状況



2015年5月下旬から7月上旬まで高温傾向の天候が続き作付地域に影響。

2015年8月上旬に高温乾燥傾向の天候が続き作付地域に影響。

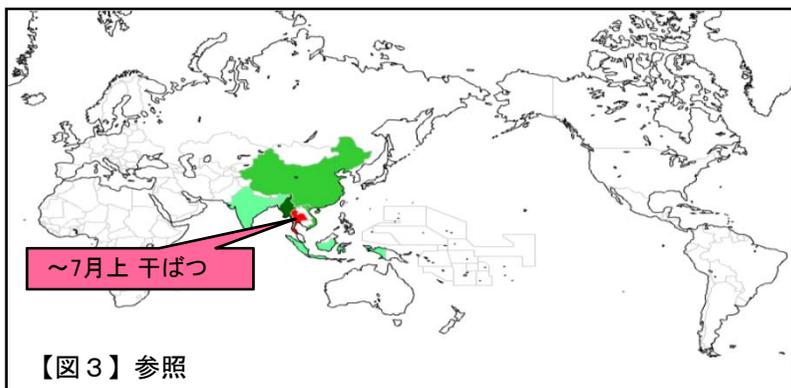
注：黄色～赤になるほど平年値（2002年7月～2012年6月）との差が大きく高温傾向を表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

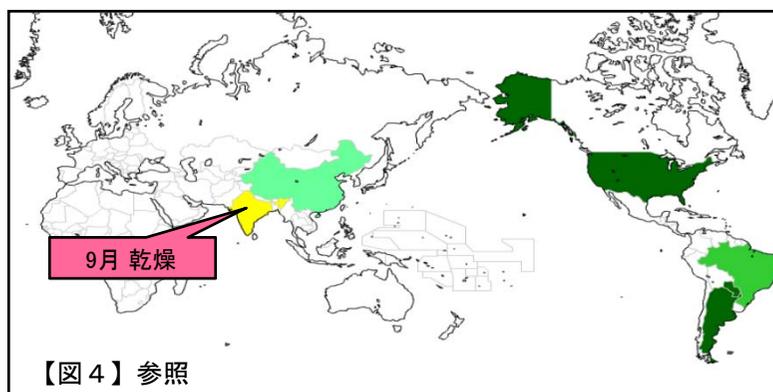
Ⅱ-3-(2) 米・大豆の作柄見通しと気象の影響

2015/16年度（2015年10月時点）の米及び大豆の主要生産国における作柄見通しについて、【米】は、ミャンマーは良、中国及びベトナムはやや良、インド、インドネシア及びバングラデシュは平年並み、タイは著しい不良の見込み。【大豆】は、米国、アルゼンチン及びパラグアイは良、ブラジルはやや良、中国は平年並み、インドはやや不良の見込み。

【図1】米の作柄



【図2】大豆の作柄



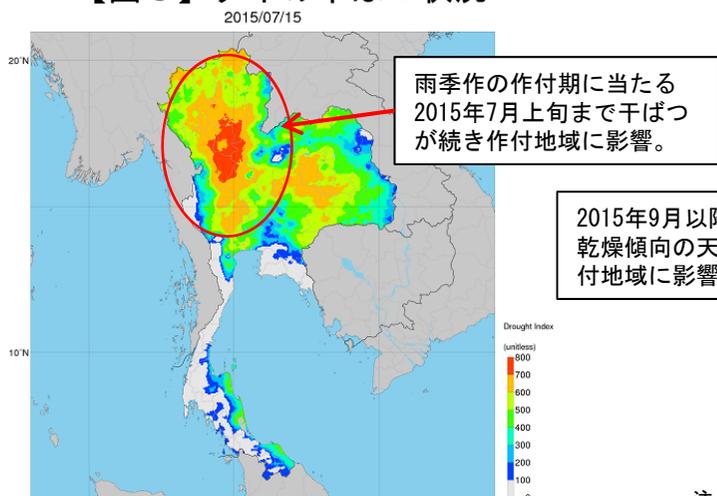
単収の過去5年
平均との対比



資料：米国農務省「P&D」（2015.10）を基に農林水産省にて作成

注：主要生産国は、各品目別に生産量の過去3年平均の上位6~7カ国を対象（2015年5月時点）。作柄概況は過去5年間の単収の平均に対する2015/16年度の単収（見込み）の比較により区分。なお、EU（欧州連合）の加盟国については、EUとして一括区分。

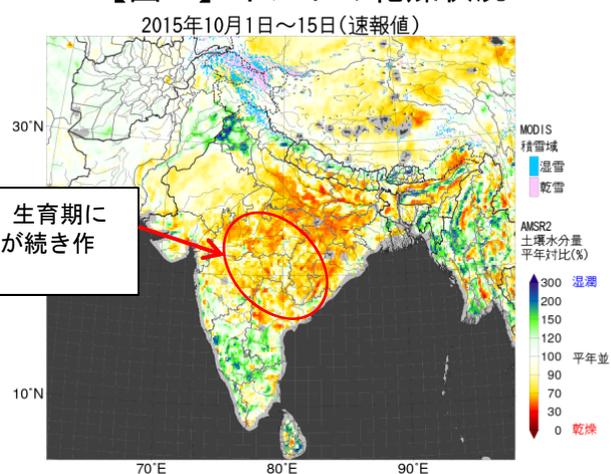
【図3】タイの干ばつ状況



注：赤色になるほど乾燥していることを表す。

資料：JAXA提供「JASMIN (JAXA's Satellite based Monitoring Network system for FAO AMIS outlook)」を基に農林水産省で作成。

【図4】インドの乾燥状況



注：黄色~赤になるほど平年値(2002年7月~2011年6月)と比べ乾燥していることを表す。

資料：JAXA提供「JAXA Satellite Monitoring of Agrometeorological Information (JASMAI) 農業気象情報衛星モニタリング」を基に農林水産省で作成。

※ 気象庁は、2015年10月9日付けのエルニーニョ監視速報(No. 277)で、「エルニーニョ現象が続いている。今後、春にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。」と発表した。